

愛知県環境影響評価審査会会議録

1 日時

平成 21 年 3 月 26 日 (木)

午前 10 時から午前 10 時 45 分まで

2 場所

愛知県自治センター 4 階 大会議室

3 議事

- (1) 小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価方法書について
- (2) その他

4 出席者

(1) 委員

成瀬会長、北田部会長、岩田委員、梅村委員、岡村委員、岡本委員、清水委員、芹沢委員、大東委員、武田委員、長谷川委員、藤江委員、丸山委員、柳澤委員、吉村委員 (以上 15 名)

(2) 事務局 (愛知県)

(環境部) 藤井部長、山本技監

(環境活動推進課) 伊藤課長、坂井主幹、伊藤主任主査、松尾主査、
関本技師、服部技師

(大気環境課) 中根主任、森技師

(水地盤環境課) 吉田主任

(自然環境課) 高橋主任

(資源循環推進課) 永井主査、戸田主査

(3) 事業者

(小牧市) 仲根課長

(小牧岩倉衛生組合) 平岩技監、舟橋課長、後藤係長、岩本主事

5 傍聴人等

傍聴人 3 名、報道関係者 1 名

6 会議内容

(1) 開会

(2) 議事

ア 小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価方法書について

- ・ 会議録の署名について成瀬会長が、長谷川委員と吉村委員を指名した。
- ・ 資料1「小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価方法書に関する関係市長意見（春日井市長、犬山市長及び小牧市長）」について事務局から説明があり、資料2「小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価方法書に関する部会報告」について、北田部会長から報告があった。

< 質疑応答 >

- 【藤江委員】 部会報告の1(2)について、再生資源やエネルギーの有効活用の観点から意見しているが、アセスの中でLCA的な評価も行うことができるのか。
- 【北田部会長】 従来のごみ焼却施設はごみ処理の効率のみについて考えられていたが、本事業ではそれに加えて、再生資源やエネルギーの有効活用の観点からも検討する必要があるという意味での指摘である。評価の範囲についてはまだ想定していないが、準備書を見た上で判断したい。
- 【事務局】 アセス制度上では、廃棄物等及び温室効果ガス等については環境への負荷の量の程度により予測・評価されるべき環境要素となっているが、LCA そのものまで事業者に求めるのは現行の制度では難しいのではと考える。
- 【清水委員】 部会報告の5に関して、人と自然との触れ合い活動の場や景観については、アセスとしてどのように取り扱えばよいか。
- 【北田部会長】 人と自然との触れ合い活動の場については、現在、そのような場が事業実施区域の近傍にあるので、新施設の設置によって利用しにくくなること等がないよう、評価項目としている。
- 【事務局】 景観について、現在のアセスにおける影響とは悪影響と同義であるので、住民に周知させるというよりは、施設の

設置により地域の景観への悪影響が生じるかという観点からの審査になる。また、今回のアセスは都市計画の手続きと並行して行われている。都市計画上では位置決定の段階であるが、本件は事業アセスの側面もあるので、事業計画を検討する中で景観に関する配慮を求めていくこととなる。

【柳澤委員】 部会報告の4(2)の猛禽類の調査について、「猛禽類の種の識別、飛翔状況等の調査を行うこと。」としているが、調査範囲を広げ、繁殖状況の調査を加えた方がよいのではないか。

【事務局】 本事業は猛禽類が利用すると考えられる山林を直接改変する訳ではないので、繁殖状況の調査について明記はしていないが、実際の調査の中で影響範囲において営巣や繁殖が確認された場合には確実に対応させたいと考えており、「猛禽類の種の識別、飛翔状況『等』の調査」としている。

【成瀬会長】 この部会報告について、特段、修正を要する意見等もないようなので、このまま審査会の答申としてよろしいか。
(異議なしの声)

【成瀬会長】 それでは、この部会報告をそのまま審査会から知事への答申としたい。

- ・ 資料2の「小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価方法書に関する部会報告」を審査会答申とすることで合意し、別紙の写しのとおり答申した。

イ その他

- ・ 事務局から、特にない旨の発言があった。

(3) 閉会



別紙

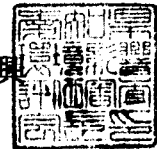
平成21年3月26日

愛知県知事

神田真秋殿

愛知県環境影響評価審査会

会長 成瀬治



小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価
方法書について（答申）

平成21年1月15日付け20環活第256-3号の諮問については、別添
のとおりお答えします。

小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る
環境影響評価方法書に対する答申

はじめに

小牧岩倉衛生組合環境センターごみ処理施設更新に係る環境影響評価方法書(以下「方法書」という。)について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

都市計画決定権者は、以下の事項について十分に検討し、適切に環境影響評価を実施し、その結果を環境影響評価準備書(以下「準備書」という。)に記載する必要がある。

1 全般的事項

- (1) 環境影響評価の実施に当たっては、事業計画、工事計画等をより具体化した上で、より確実性の高い予測及び評価を実施し、その結果をもって事業計画、環境への配慮事項、環境保全措置等の検討へ適切に反映すること。
- (2) ごみ焼却施設の処理方式については、3通りの案の中から稼働実績、処理性能、維持管理性、安全性、環境保全性、生活環境への影響等を勘案して決定しているが、循環型社会及び低炭素社会の実現に向け、スラグやメタル等の再生資源やエネルギーの有効利用の観点も十分勘案し検討すること。また、その比較検討の経緯及び内容を分かりやすく示すこと。
- (3) 新たなごみ処理施設について、ごみ排出量の推計等を踏まえた処理能力の算定方法及び既存施設からの改良点を分かりやすく示すこと。
- (4) 本事業計画において、既存の施設の撤去又は廃棄が予定されている場合には、その影響を適切に把握するよう調査、予測及び評価を行うこと。
- (5) 工事計画の検討に当たっては、事業実施区域南東に複数の老人福祉施設等があるため、低公害型建設機械の採用や、これらの施設を避けた工事用車両の運行ルートの設定など、適切な配慮を行うこと。
- (6) 環境影響評価の実施中に環境への影響に関し新たな事実が生じた場合などにおいては、必要に応じて、選定された項目及び手法を見直し、又は追加的に調査、予測及び評価を行うこと。

2 大気質

ばい煙の排出による大気質への影響については、事業実施区域周辺の風向・風速が北側の山地による影響を受けていると考えられることから、当該地域の風向・風速を十分調査した上で予測を行うこと。特に、当該山地によるダウンドラフトについては、風の乱れや逆風が起こる可能性がある山地の高さ付近までの上層風をより密な間隔で調査すること。

3 低周波音

低周波音の調査地点については、事業実施区域南東における老人福祉施設等の周辺において追加設定すること。

4 動物、植物、生態系

- (1) 事業実施区域近傍には水生生物の生息環境が存在するため、環境影響を受けるおそれがある地域において、魚類、底生動物の調査以外に淡水貝類の調査を行うこと。また、底生動物については、多くの種が羽化する前である早春期にも調査時期を設定すること。
- (2) 事業実施区域近傍まで山地が迫り、近傍において猛禽類の飛翔が見られることから、鳥類の調査以外に、猛禽類の種の識別、飛翔状況等の調査を行うこと。
- (3) 事業実施区域北側にあるコモウセンゴケ群落周辺においては、湧水湿地の植物を適切に把握するよう調査すること。また、植物へのばい煙の排出による影響の有無について、植生及び植物相等の調査に際し、現地確認及び聞き取り調査等により把握すること。

5 景観、人と自然との触れ合いの活動の場

- (1) 景観については、事業実施区域周辺において新たなごみ処理施設を視認できる地域を示した上で、近景及び遠景の眺望点を適切に設定すること。また、景観に係る調査期間等については、工作物の存在による影響を適切に予測及び評価するため、四季各季に調査時期を設定すること。
- (2) 人と自然との触れ合い活動の場については、事業実施区域近傍にふれあいの森等が存在することから、利用状況を適切に把握するよう四季各季の平日及び休日に調査期間等を設定すること。

6 温室効果ガス

ごみ焼却余熱による発電については、より高い発電効率となるよう検討するとともに、周辺施設への余熱利用を積極的に検討すること。

7 その他

- (1) 調査、予測及び評価に当たっては、方法書に対する住民などの意見を十分に検討すること。
- (2) 準備書は専門的な内容が多く、かつ、膨大な図書となる可能性があることから、その作成に当たっては、住民などに分かりやすいものとなるよう配慮すること。

検 討 の 経 緯

| 年 月 日 | 会 議 | 備 考 |
|------------|-------|---------------------------------------------------|
| 平成21年1月15日 | 審 査 会 | 知事からの諮問 方法書の内容の検討 住民意見の概要の検討 部会の設置及び付託 |
| 平成21年2月9日 | 部 会 | 方法書の内容の検討 住民意見の概要の検討 |
| 平成21年3月25日 | 部 会 | 方法書の内容の検討 関係市長意見の検討 部会報告の検討 |
| 平成21年3月26日 | 審 査 会 | 方法書の内容の検討 関係市長意見の検討 部会報告 答申の検討 知事への答申 |

愛知県環境影響評価審査会委員

| | |
|--------|---------------------|
| 今榮 東洋子 | 慶應義塾大学大学院理工学研究科教授 |
| 岩田 好一朗 | 中部大学工学部教授 |
| 内田 臣一 | 愛知工業大学工学部准教授 |
| 梅村 武夫 | 名古屋大学名誉教授 |
| 岡村 穰 | 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授 |
| 岡本 真理子 | 東海学院大学人間関係学部教授 |
| 北田 敏廣 | 豊橋技術科学大学工学部教授 |
| 黒田 達朗 | 名古屋大学大学院環境学研究科教授 |
| 小池 隆 | 三重大学生物資源学部教授 |
| 清水 正一 | 中京大学総合政策学部教授 |
| 芹沢 俊介 | 愛知教育大学教育学部教授 |
| 大東 憲二 | 大同工業大学工学部教授 |
| 武田 明正 | 三重大学名誉教授 |
| 竹中 千里 | 名古屋大学大学院生命農学研究科教授 |
| 立川 壮一 | 藤田保健衛生大学医学部教授 |
| 田中 稲子 | 横浜国立大学講師 |
| 永瀬 久光 | 岐阜薬科大学教授 |
| 成瀬 治興 | 愛知工業大学工学部教授 |
| 朴 恵淑 | 三重大学人文学部教授 |
| 長谷川 明子 | 財団法人日本生態系協会評議員 |
| 廣畠 康裕 | 豊橋技術科学大学工学部教授 |
| 藤江 幸一 | 横浜国立大学大学院環境情報研究院教授 |
| 藤原 奈佳子 | 愛知さわみ看護短期大学教授 |
| 堀越 哲美 | 名古屋工業大学大学院工学研究科教授 |
| 丸山 宏 | 名城大学農学部教授 |
| 光田 恵 | 大同工業大学工学部准教授 |
| 柳澤 紀夫 | 財団法人日本鳥類保護連盟理事 |
| 吉村 いづみ | 名古屋文化短期大学教授 |

：会長

：会長代理

（敬称略、五十音順）